

大切な人を在宅で看取ったあと、ご家族がともに過ごす時間を、私たちはどのように支えられるでしょうか。故人の尊厳を守り、ご家族のお別れを支えるエンゼルケア。その意味や方法を正しく理解し、医療・介護から納棺・葬儀へと支援をつなぐことは、看取り後の不安や戸惑いに寄り添ううえで大切な視点です。連載「在宅で生きる、看取る、送る」では、医療・介護・看取り・葬儀に関わる専門職の対話を通じて、看取り後の家族支援を考えます。第2回は、つなぐ葬儀社 欅―TASUKI―の協力のもと、エンゼルケアの正しい理解と、看取りのその先を支える連携をテーマにお届けします。公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事・看護師の平原優美先生と、つなぐ葬儀社 欅―TASUKI―を運営する株式会社Flat. Central 取締役の千々岩巧さんに、ご家族の想いを大切にしたエンゼルケアのあり方と、医療・介護職と納棺師・葬儀社が日頃からつながることの意義を伺います(2026年10月取材)。

在宅看取り後の家族支援｜お別れの時間を大切にする理由

在宅看取りの後、ご家族はどのような時間を過ごされることが多いのでしょうか。



平原　ご自宅でお亡くなりになり、主治医の先生が死亡確認をして診断書を書かれた後は、すぐに退室されるのが一番多いパターンです。その後は、私たち訪問看護師とご家族が残り、お別れの時間をご一緒することになります。
療養されている間にもご状態は少しずつ変化していくので、ご家族は「お別れが近づいているんだ」という予期悲嘆を抱えながら、辛い思いをされています。それでも、実際に医師から亡くなったと宣告を受けた後の悲しみは、また違うものなんですね。
その悲しみが大きく、まだ受け止めきれないような様子の時は、少しお時間をあける配慮をします。看護師の動きとしては、そのままエンゼルケアに進む方がスムーズではあるのですが、「ご家族だけでゆっくり過ごされますか？」とお聞きして、隣のお部屋に控えさせていただいたり、ご自宅が近ければ一度ステーションに戻って「1時間後にお伺いしますね」とお伝えすることもあります。
少しお別れの時間を作れるかどうかで、その後の受け入れ方が全く変わってくるんです。例えば、遠方から駆けつけ、お元気だった頃とのお姿の違いに驚かれるご家族もいらっしゃいます。そうした際に、ご家族だけで「急だったね」と言葉を交わし、まずはお気持ちを落ち着かせるための時間を持つことがとても大切なのです。
一方で、長く一緒に介護をされてきて、色々なことを一緒にやり切ったというご家族の場合は、そのまま穏やかにお話をしながら「一緒にエンゼルケアをしましょうか」とお声がけします。洗髪なども含めてご生前の面影に近づけるようにケアを行い、ご家族とともに丁寧にお見送りの準備を進めていくんです。

その際、ご本人やご家族の信仰にも配慮し、神道、仏教、キリスト教など、それぞれの宗教に合わせた「死装束をお着せする」「守り刀を納める」といったルールに基づいて一緒に処置を進めていきます。そうして思い出を語り合いながらお身体をきれいにしていると、悲しみの涙の中にもふと温かな笑顔があふれる心通う時間になりますね。

葬儀社と納棺師は同じように捉えられがちですが、どのような違いがあるのでしょうか。



千々岩　これは一般の方だけでなく、医療や介護に従事されている方々にも意外と知られていない事実なのですが、「葬儀会社がエンゼルケアをするわけではない」ということをまず大前提として知っていただきたいです。
具体的にどういうことかと言いますと、葬儀会社はあくまで式をプロデュースする役割なんです。葬儀の日程や式場、火葬場をどこにするか、遺影やお花の祭壇、お料理の段取りなどを組んでいくのが仕事です。そのため、ドライアイスを当てることはあっても、「故人様のお身体には触れない」という葬儀社の担当者は結構多いんです。
それに対して、お身体に触れてエンゼルケアを行うのが「納棺師」です。ここも誤解されやすいのですが、ほとんどの葬儀会社は自社に納棺師を抱えていません。エンゼルケアや納棺のご依頼が入った時に、専門で行う納棺会社へ外注し、葬儀会社の人間という立場でご自宅に入ってもらうという形をとっています。
また、納棺師は国家資格ではなく民間資格となります、故に納棺会社によって技術に差や、やり方が違うということも覚えておいていただけると良いかと思います。

医療・介護職が、納棺師の役割や事情を知っておくことには、どのような意味がありますか。



千々岩　現在、葬儀会社から外注を受けてご自宅に来てくれる納棺師の多くは、夜間対応をしていない会社が増えています。そのため、夜間にもしものことがあって葬儀会社へご連絡が入ったとしても、納棺師による処置は翌朝に回されてしまうということが結構起きているんです。
一般的に納棺師が自社で葬儀も行っている会社であれば、夜間でもご希望に合わせて伺い、処置をしてそのままお打ち合わせをすることができます。しかし、そういった対応ができる会社が多数派ではない、というのが今の実情としてあります。
平原　訪問看護が入っている場合は、そのまま看護師がエンゼルケアを行う割合が比較的多いです。点滴などの医療的な管が入っている方も多いので、それらをきれいに外し、ご家族の目に触れても安全な状態にする必要があるからです。腹水が溜まっていたり、出血があるような状態だと、医師から「看護師にやってもらった方がいい」とご家族に勧められることもありますし、ご家族からそのまま「やってください」とお願いされることもあります。
ただ、こういった夜間の葬儀社さんや納棺師さんの事情を知っておくことで、ご家族が朝まで不安にならないよう、私たちがどこまでケアをしておくべきか、より適切なサポートにつなげられると感じますし、それと同時に看取り後の家族の時間を大切にすることにもなると思います…

続きはQRコードからアクセスしてください　→ → →

本インタビュー記事は、“医療・介護現場からのご紹介を通じてご家族のお見送りを支え、納棺師の専門性を大切にする” つなぐ葬儀社 襷-TASUKI-” の協力により制作しました。

在宅医療com株式会社 〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F service@zaita9iryou.com